



至誠

勝田第三中学校 学校だより 第31号
令和8年2月27日(金) 発行
文責: 校長 川上徹行



勝田三中HP

学校評価のための保護者アンケートへのご協力ありがとうございました。



今年度2回目となる保護者アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。
本校の学校評価は、教職員による自己評価と学校関係者評価（本校では学校運営協議会委員の皆様が兼務）を柱として実施しております。これらに保護者の皆様からのご意見を加え、多面的な視点から教育活動を分析し、次年度以降の改善につなげてまいります。

今回はその一環として、学校側の視点だけでなく、生成AI（NotebookLM）を活用した客観的な分析も試みました。新たな手法も参考にしながら、より実効性のある改善策の検討を進めてまいります。

今後も、本校の子どもたちの健やかな成長のため、保護者並びに関係者の皆様の建設的なご意見を大切に、教育活動の一層の充実・改善に努めてまいります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

学校評価アンケート結果から見える成果と課題

◎ 肯定的評価（肯定率）の比較一覧表

以下の表は、各項目の「あてはまる」と「ややあてはまる」の合算値を「肯定率（％）」とし、その変遷をまとめたものです。なお、増減幅が5.0ポイント以上の項目については、有意な変化として数値を網掛け（**+** **-**）で表記しています。

項目番号と内容	第1回（％）	第2回（％）	増減幅(ポイント)
1. 授業が「わかった」「できた」	51.5	47.8	-3.7
2. 学習に意欲的に取り組んでいる	61.1	63.1	+2.0
3. 授業中に考え、話し合い、発表している	74.3	78.8	+4.5
4. みんなで楽しく取り組んでいる	83.2	82.6	-0.6
5. 家庭学習に継続して取り組んでいる	61.0	64.2	+3.2
6. タブレットを学びに活用している	67.0	76.0	+9.0
7. 学校が楽しいと言っている	80.8	76.7	-4.1
8. 自分で考え、判断して行動している	80.8	79.4	-1.4
9. 基本的な生活習慣が身に付いている	80.2	82.6	+2.4
10. 思いやりのある発言や行動している	86.8	89.2	+2.4
11. 事故にあわないよう気を付けている	97.0	97.3	+0.3
12. 地域の行事に積極的に参加している	30.0	38.6	+8.6
13. HP、アプリ等で学校の様子伝わる	85.1	84.2	-0.9
14. 教職員は丁寧に対応している	88.6	84.2	-4.4
15. 教師は温かい人間関係づくり努めて	86.8	81.0	-5.8
16. 安全・安心な学校生活に努めている	90.4	89.1	-1.3
17. 学校と家庭は連携とれている	81.4	79.9	-1.5

(1) 向上が見られた主な項目

- 今回のアンケート結果から、本校の取組の成果がいくつかの面で確認できました。

■ 項目2・3（学習指導の充実）

- 授業の中で、生徒が考えたり、話し合ったり、発表したりする「アウトプットの機会」を意識的に増やしてきました。その結果、生徒の学習意欲の向上につながっている様子が見えてきました。

えます。

■ 項目 5・6 (ICT 活用の定着)

- ・ 特に項目 6 は大きく向上しました。タブレットが「特別な機器」ではなく、日常的な学習ツールとして定着してきたことが背景にあると考えています。家庭学習の継続にも良い影響が見られます。

■ 項目 12 (地域参画意識の広がり)

- ・ 肯定的な回答は大きく伸びました。一方で、最も強い肯定である「あてはまる」はわずかに減り、「ややあてはまる」が増えています。
- ・ これは、地域活動への参加の裾野は広がっているものの、主体的に関わる生徒のさらなる育成が今後の課題であることを示していると捉えています。

(2) 成果につながった主な取組

- ・ これらの向上は、学校全体で進めてきた次の取組の成果と考えています。

■ 探究的な学びの推進

- ・ 校内研究として進めてきた「アウトプット重視の授業づくり」が、各教員の実践に着実に広がっています。相互授業参観や研究協議を通じた授業改善のサイクルが機能し、生徒がタブレットを活用して思考を整理・表現する場面が日常的に見られるようになりました。

■ 地域とのつながりづくり

- ・ 11月のコミセン祭りへの参加や、探究学習の成果発表など、地域社会と関わる機会を意図的に設けてきました。こうした実社会での発表経験が、生徒の社会参画意識の高まりにつながったと分析しています。

(3) 今後に向けた課題

- ・ 学習面や ICT 活用が着実に伸びる一方で、人間関係づくりに関する項目には、今後の改善に向けた示唆も見られました。

■ 項目 14 (教職員の対応) の変化

- ・ 肯定的回答は、前回：88.6%、今回：84.2%、と、4.4ポイントの低下が見られました。
- ・ 依然として高い水準ではありますが、保護者の皆様の期待の高まりを真摯に受け止め、より丁寧な対応の充実を図る必要があると考えています。

■ 項目 15 (教師による温かい人間関係づくり)

- ・ 肯定的評価は、前回：86.8%、今回：81.0% (5.8ポイント減) また、「あまりあてはまらない」という回答も増加しており、一部のご家庭に不安や物足りなさを感じさせている可能性を重く受け止めています。

※ 課題の背景として考えられること

- ・ 本校では「心と体のモニタリングアプリ」を活用し、児童生徒の状況把握に努めています。一方で、データの把握に加えて、対面での丁寧な関わりをどれだけ充実させるかが、今後さらに重要になると考えています。
- ・ 学級間での関わり方の差を縮め、どの学級でも安心感のある支援が行われるよう、校内での取組を一層強化してまいります。

(4) 今後の改善に向けて

- ・ 今年度、本校は学力向上と ICT 活用の面で確かな成果を上げることができました。次年度は、この強みを生かしながら、次の2点を重点として取り組みます。
 - ① アウトプットを重視した授業づくりを継続し、ICTを「協働的な学び」の充実へと発展させること
 - ② モニタリングデータを活用しつつ、教師による温かく丁寧な関わりを一層充実させること
- ・ デジタルのよさと、対面での人間的な関わりを両立させながら、学習面・心理面の双方で、生徒一人一人が安心して成長できる学校づくりを進めてまいります。